

人生の喜びを 言葉や歌に込め、 国内外の舞台に立つ。

学園祭での演劇発表が 人生の転機に。

ソプラノ歌手として音楽の道を歩む私の
原点は、愛知淑徳高校の学園祭です。高2
のとき、クラスメイトと一緒に、演劇の舞台
づくりに全力を注ぎました。プロの脚本家に
手紙を出してアドバイスをいただき、台本
作成や演出に熱中。主役も演じました。幼い
頃からピアノやバレエなどを習い、もともと
音楽が好きでしたが、自分の声で表現する
ことのおもしろさを実感。このときの経験
が、自分が進みたい方向を明確にするきっ
かけ、人生の転機になったと感じています。
その後、音楽家である父の仕事の関係で
オーストリア・ウィーンに行くことになり、
1年間休学。芸術の都で演劇やオペラ、バレ
エなどを鑑賞し、歌の勉強も本格的に始め
ました。世界トップレベルの舞台芸術に圧倒

されながら、感性を磨き視野も大きく広げ
て帰国。高3に復学し、担任の服部先生のご
指導のもと、自由な雰囲気クラスで音楽
大学進学をめざしました。

愛知淑徳で培ったのは、「負けないぞ」と
いう心の強さ。ダンス部での活動、マラソン大
会や水泳大会などの体育会系の行事など
を通して、目標に向かって突き進む力が鍛えら
れました。自分の礎は「淑徳魂」であること
を今も誇りに思っています。

「人の喜び」につながる歌を、 求め続けて。

国立音楽大学・大学院で6年間、文化庁
オペラ研修所で2年間学んだ後、ソプラノ
歌手の一步を踏み出しました。1990年は
文化庁芸術家在外研修員としてミラノに
留学し、その翌年、第9回パヴァリア国際声楽
コンクールで優勝。1993年はアサヒビール

芸術文化財団芸術家海外派遣助成を受け
てイタリアとスペインに留学し、ベルカント唱
法の研鑽を重ねました。帰国した1995年、
東京と名古屋で帰国記念リサイタルを
開催。名古屋市民芸術祭審査員特別賞も
いただきました。常に「人の喜び」につながる
言葉や歌の表現を追求しながら、国内外の
劇場で数多くのオペラに出演。さらに主要
オーケストラとの共演、NHKの番組出演な
ど、幅広いステージに立ち続けてきました。

愛知淑徳で学ぶ後輩のみなさんに伝えた
いは、「自分の力や可能性を信じて、自分
の成長を見届けよう！」というメッセージ
です。支えてくれる人、応援してくれる人へ
の感謝の心を忘れず、努力を惜しまずに「で
きること」を「つぎつ増やしていきましょう。
すると、自分が進むべき道が目の前に開かれ
ていきますよ。」



2010年、東京フィルハーモニー交響楽団
定期演奏会で、ファリャ作曲「三角帽子」に
出演。ソプラノ・ソロを務め、好評を得ました。



個性豊かな仲間や恩師・原田先生と出会った
高2のクラス。学園祭の演劇部門では1位に
輝き、みんなで喜びを分かち合いました。

ソプラノ歌手 山本 真由美さん

愛知淑徳高等学校を1982年3月に卒業し、国立音楽大学音楽学部、同大学院
声楽専攻で研鑽を積む。文化庁オペラ研修所（現：新国立劇場オペラ研修所）
第7期生を経て、国内外のリサイタルやコンサート、オペラに数多く出演。現在は
国立音楽大学および京都市立芸術大学の講師として後進の指導にも励む。